

第2期江府町まち・ひと・しごと総合戦略検証結果  
～持続可能な「3000人の楽しい町」～

【基本目標Ⅰ】 新しい人の流れの創出

指標	目標数値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	有識者からの意見	今後の対応方針
住基人口	2,757人(令和3年1月末) →2,400人(令和7年末)	2,648	2,596	2,517			<ul style="list-style-type: none"> <li>・転出先、転入元、転入理由の調査分析を行い、特に20代30代の転出抑制対策を実施されたい。</li> <li>・義務教育学校の魅力化は、子育て世代の転入契機になると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧庁舎跡地の分譲地化など定住できる土台を整えたい。</li> <li>・転入の契機となるよう、様々な支援施策の見える化を行いたい。</li> <li>・転出理由の分析を行い、ふるさと教育などで地域貢献など意識づけにつながることを強化したい。</li> </ul>
転入数	57人(令和元年度末) →60人(令和7年度末)	42	56	66				
転出数	114人(令和元年度末) →70人(令和7年度末)	75	62	77				

●【基本目標Ⅰ】に対する個別評価

取組	策定時	目標値	実績値 (R3年度)	実績値 (R4年度)	実績値 (R5年度)	状況	進捗評価	有識者からの意見	今後の対応方針
子育て環境満足度(「子ども子育て支援計画」策定時のアンケートにおける「満足」「ほぼ満足」の割合)	56% (H31年3月)	65% (R7年度末)	R6年度に評価	R6年度に評価		5年毎に環境満足度調査を実施。今後は、令和6年度にアンケート調査予定。(第1回H26.8月調査46.9%、第2回H31.3月調査56%)	B.順調	令和6年度中に遅滞なく評価を実施するように	
空き家情報バンクの増加件数	40件増加 (R2年末)	40件 (R7年末)	6	5	16	令和5年度末空き家バンク登録物件数73件(内入居募集中17件、交渉・検討中3件、入居中44件、取下げ10件)直ちに居住いただける優良な物件が少ない状況。引き続き固定資産税の納税通知書や管理不全空き家の管理についての通知に空き家バンクに関するチラシを同封する。また、死亡後の手続きに來られる際に空き家バンクのチラシを配布し、前向きな登録を促す。	B.順調		
新たに整備した住宅等への世帯の転入	0世帯 (R2年末)	25世帯 (R7年度末)	0	0	12	令和4年度にPPP方式活用し事業者を決定、設計を行い、令和5年度に佐川地区に江府町移住促進住宅を12戸(賃貸)建設。R5.8から入居者募集を開始してから半年以内に全戸入居者が決定。補助金による家賃低廉化を実施。町内外から転入し、移住促進と人口流出抑制に寄与した。	B.順調	・住宅の需要はまだあるのではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに整備した住宅でも単身者の相談が多かった。住むところがないと認識している。</li> <li>・旧庁舎跡地の分譲地化など住宅施策を強化したい。</li> </ul>
住宅及び用地に関する相談件数	0件 (R2年度末)	100件 (R7年度末)	28	64	391	令和5年度空き地に関する相談は4件。住宅(空き家)に関する相談は387件。所有者からの相談件数が増加傾向。従来の空き家対策計画を、第2期空き家及び空き地対策として策定。空き地バンクを令和6年度当初に開設できるよう準備した。 空き家の賃貸売買が成立した件数15件(うち町外3件)	A.すでに達成		
ふるさと納税額	121,783千円 (R2年末)	196,132千円 (R7年末)	480,147千円 (R3年末)	587,245千円 (R4年末)	608,847千円 (R5年末)	令和5年度は掲載サイト拡充・ラインナップ拡大等の工夫により堅調な伸びとなった。寄付金の用途については、基本的には「自然環境の保全と活用」「子育て支援・教育の充実」等、目的別に積み立てているが、スポットでクラウドファンディングを行うことにより見せ方を変えている。	A.すでに達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・返礼品による地域経済の活性化、波及効果につながるよう取り組まれた。</li> <li>・「水」の返礼品を入口として、他の返礼品にもつながるようなことを検討されたい。</li> <li>・自然塾や木谷沢溪流など自然を活かした体験事業を充実されたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「水」についてはストックヤードの課題があり、担当が物流をうまくやってくれているが、これ以上は難しい。他の商品を強化したい。</li> </ul>

【基本目標Ⅱ】 産業の創出

指標	目標数値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	有識者からの意見	今後の対応方針
特定事業協同組合 あるいは地域商社 における雇用者数 (人)	0人(令和2年度末) →5人(令和7年度末)	0人	0人	0人			<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度はそばが振るわないといった話があったが、今年度はどうか？</li> <li>・プレミアム特別栽培米の推進はどうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そばの需要は回復傾向だが、そば栽培に専念できるほどまでにはなっていない。</li> <li>・特別栽培米も生産コストの割に終了が少なく厳しいと聞いている。</li> <li>・昨今の米不足の話題もあり、生産依頼が増えている。</li> </ul> 様々な情勢を加味して支援策を検討したい。
会社起業数(件)	0件(令和2年度末) →5件(令和7年度末)	3件	4件	3件				
そば耕作面積累計(ha)	30(令和2年度末) →216(令和7年度末)	34.3ha	73.0ha	109.3ha				
商品開発数(個)	0(令和2年度末) →13(令和7年度末)	7個	8個	5個				

●【基本目標Ⅱ】に対する個別評価

取組	策定時	目標値	実績値 (R3年度)	実績値 (R4年度)	実績値 (R5年度)	状況	進捗評価	有識者からの意見	今後の対応方針
梨栽培面積(a)	13a	65a (R7年度末)	13a	13a	13a	令和7年度完成を目指した50aの梨園整備計画を進行中。 令和6年度の12月頃に梨を定植予定。	B.順調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梨の生産拡大は期待ができる。更なる拡大をしても良いのでは。</li> <li>・収穫までの収入ギャップを埋めるようなことも検討されたい。</li> <li>・担い手や新規就農者にとっても良い農産物だ。</li> <li>・収穫体験など来訪者の体験につながるようなことを考えても良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる拡大は担い手がいるかどうか。</li> <li>・公社で土台をつくり就農希望者に渡すようなこともできる。</li> <li>・産地化は難しいが、売り方を工夫して奥大山をアピールしたい。</li> </ul>
繁殖牛飼育頭数	29	60 (R7年度末)	27	21	18	和牛アカデミー事業中止。 代替案を検討中。  和牛アカデミーの一部であった受精卵活用を推進するため、令和6年度から受精卵購入代、OPU(牛の卵巣から卵子を吸引採取し、体外受精で胚を作成する技術)による受精卵作成、移植経費の補助事業を実施した。	D.遅れている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和牛の復活は難しい状況</li> <li>・撤退評価でもやむを得ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和牛価格の大幅な値下がりがあり、上向きは見込めない</li> <li>・繁殖農家への今の支援を継続させたい</li> </ul>
法人営農組織数	3	6 (R7年度末)	4	4	4	町内の集落営農法人は4法人。 現在、一集落が令和6年度の法人設立に向けて話し合いを行っているほか、法人化検討中の集落も一つある。	B.順調		
地域内消費額	273,751千円 (R2年度末)	349,383千円 (R7年度末)	278,118千円	262,061千円	264,266千円	前年度比より増加はしているが、R2年度目標値にも達していない。 コロナの5類移行により、人の動きも変わりつつあると考えられるため、次年度以降も消費増を目指す。	C.やや遅れている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小売業が弱い</li> <li>・目指す消費者層を絞り、具体策を打たれたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域振興券は昨年度も売れた。</li> <li>・町外からの消費をあげる施策を考えたい。</li> </ul>
チャレンジ支援事業 累計利用者数	5件	15件 (R7年度末)	9件	10件	12件	R5年度 起業1件(映像、キャラクターグッズ等制作会社) 特産品開発1件(くろもじを活用したハンドクリーム等商品開発) 特産品開発により、企業売上の増加を狙う。 また起業については、今後の活動に注目する。	B.順調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が増加するのは良い傾向だ。</li> <li>・江府町は宿泊が弱い。宿泊業者がなんとかできないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1室でも十分な宿泊環境が整えられると良いのだが。宿泊事業者の方針もある。</li> </ul>
新規就農者数累計	0人	2 (R7年度末)	0	1	0	果樹・酪農の新規就農予定者がそれぞれ1人ずつ研修により技術習得中。果樹の新規就農予定者は令和9年に就農予定。酪農の新規就農予定者は令和9年に経営移譲を受ける予定。また、1人野菜栽培技術取得中で、近年の就農を検討している。	B.順調		
ジビエ加工品販売額	1,246千円	3,000千円 (R7年度末)	2,729千円	4,377千円	4,958千円	運営組織の令和5年度売上計画2,400千円に対し206%となっており、年々売上は増加している。	A.すでに達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売額増加の要因を分析し、伸びしろがあるならさらなる支援もしても良いのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討したい</li> </ul>
道の駅奥大山来客者数	16.6万人	26.6万人 (R7年度末)	16.4万人	20.1万人	19.5万人	新型コロナの5類移行により、集客数が増えると思われたが、移行直後でもあったため、即効性がなかったと考えられ、前年度より集客は少なくなった。次年度は大型連休や夏休みなどの集客増を期待したい。	C.やや遅れている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来客者増加の具体策を打たれたい。</li> <li>・売上額は伸びているようだが、利益はまだまだ。</li> <li>・食べる場所がないといったイメージがある。</li> <li>・来訪者の次の導線を考えることが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食するところも増えている。自然に触れた後の次の導線伝える施策を考えたい。</li> </ul>

【基本目標Ⅲ】 地域人財の育成

指標	目標数値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	有識者からの意見	今後の対応方針
ふるさとへの愛着を抱く子ども（中学3年生）の割合（％）	66％（令和2年度末） →90％（令和7年度末）	95	85.7	88.8			・義務教育学校に町外からの天候もあったと聞く。魅力化は移住定住にもつながると思う。	・子育て世代への支援は充実していると思っている。義務教育学校のさらなる魅力化を図りたい。
地域運営組織数	0件（令和2年度末） →3件（令和7年度末）	0	0	0				

●【基本目標Ⅰ】に対する個別評価

取組	策定時	目標値	実績値 R3年度)	実績値 R4年度)	実績値 R5年度)	状況	進捗評価	有識者からの意見	今後の対応方針
まなびや縁側（公設塾）の江府町出身受講生徒数	0人 (R2年度末)	16 (R7年度末)	1	31 (R4年度末)	40 (R5年度末)	令和4年度から江府拠点が開塾し、奥大山江府学園日野川校舎の生徒（6年～9年生）と高校生を対象としている。6年生から9年生が主体で、高校生は昨年度と同様1名のみである。高校生が入塾するための方策を検討する必要がある。本来2名定員の講師であるが、1名が任期満了し、もう1名が6月に急遽退職したため、9月にマネージャー講師を設置するまでは、地域の方や教育委員会職員が対応した。このように講師の確保がとても重要な課題である。	A.すでに達成		
将来は江府町に住みたいと考える児童・生徒の割合	- (R2年度末)	100% (R7年度末)	-	-	-	アンケートによると「将来江府町に住む、住まない関わらず、町のために何かしたいと考えている生徒」は88.9%あり、昨年度の71.5%と比較して割合が増えている。本年度の事業実施前のアンケート結果は、33.3%であったため、この事業実施により55.6%増加している。	C.やや遅れている	・町のために何かしたいと考えている割合が高まるのは良いこと。 ・アンケートの取り方内容はよく検討されたい。 ・アンケートで農業体験や農業を考える機会を設けることで、将来の担い手や産業の創出につながらないか。	・人口は減少しているが、義務教育学校の生徒数は横ばいが続いている。もしかしたら何か理由があるかもしれないので検証してい観たい。 ・都会で馴染めなかった子たちにとって、受皿になる可能性がある。
奨学金返済支援制度累計利用者数	1人 (R2年度末)	6人 (R7年度末)	2	3	6	着実に利用者が増加している。支援額を18万円から30万円に増額したことや転入要件を緩和したことにより、移住定住促進の効果もあったと考える。今後も町報掲載やHPで周知をしっかりと行っていく。	A.すでに達成		
地域運営組織累計設立数	0 (R2年度末)	0 (R7年度末)	0 (R3年度末)	0 (令和4年度末)	0 (令和5年度末)	令和3年度から米原地区の各集落で「米原地区を次世代につなぐ」をテーマに検討し、意見交換の回数を重ね、少しずつ危機感であったり、自分たちが何かしなければならぬといった機運が感じられるようになり、意見も少しずつ出るようになった。その中で、まずは地域の中での交流の機会を増やし、そこから地域の課題を共有し、共助を強化する取組を進める方向性で決定し、少人数での組織化をすることとなり、令和6年7月に発足。意見交換開催数 R3年度3回 R4年度10回 R5年度7回	B.順調	・目標値に対しては遅れていると思われる。	・一つ設立するのに注力しており、他に手を付けられていない。まずは1つを形にしたい。